

平成 25 年 11 月 24 日（日）施行

第 172 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 「元入れして営業を開始した」→資本金。

(借) 現金 (資産) の増加 土地 (資産) の増加	(貸) 資本金 (純資産) の増加
--------------------------------	-------------------

2. (借) 仕入 (費用) の発生 (貸) 支払手形 (負債) の増加

3. 帳簿価額<売却価額なので有価証券売却益が生じる

(借) 当座預金 (資産) の増加	(貸) 有価証券 (資産) の減少 有価証券売却益 (収益) の発生
-------------------	---------------------------------------

4. (借) 現金 (資産) の増加 (貸) 売上 (収益) の発生
受取手形 (資産) の増加

5. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生	(貸) 現金 (資産) の減少 従業員預り金 (負債) の増加
-----------------	------------------------------------

6. 当座預金残高を超過する ¥300,000 は当座借越 (負債) で処理する。

(借) 備品 (資産) の増加	(貸) 当座預金 (資産) の減少 当座借越 (負債) の増加
-----------------	------------------------------------

7. 小切手の受け取りは現金勘定で処理する。

(借) 現金 (資産) の増加	(貸) 売掛金 (資産) の減少
-----------------	------------------

第 2 問

1. 売上原価と売上総利益

仕 入		損益計算書	
期首商品 320,000	売上原価	売上原価	純売上高 28,500,000
純仕入高 15,110,000		売上総利益	
期末商品 430,000			

売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品棚卸高 の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}320,000 + \text{¥}15,110,000 - \text{¥}430,000 = \underline{\underline{\text{¥}15,000,000}}$$

純売上高 - 売上原価 = 売上総利益 の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}28,500,000 - \text{¥}15,000,000 = \underline{\underline{\text{¥}13,500,000}}$$

2. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表		損益計算書		期末貸借対照表		
資 産	負 債	費 用	収 益	資 産	負 債	期 末 純 資 産
56,000,000	36,000,000			60,000,000	38,500,000	
	期首純資産				期首純資産	
		当期純利益		当期純利益		

期末純資産＝期末資産－期末負債 の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}60,000,000 - \text{¥}38,500,000 = \text{¥}21,500,000$$

期首純資産＝期首資産－期首負債 の関係より

$$\text{期首資産} = \text{¥}56,000,000 - \text{¥}36,000,000 = \underline{\text{¥}20,000,000}$$

期末純資産＝期首純資産＋当期純利益 の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}21,500,000 - \text{¥}20,000,000 = \underline{\text{¥}1,500,000}$$

第3問

10月7日 商品の仕入

前月繰越と単価が同じなので、仕入後の残高は(80個+100個)×@¥200=¥36,000として記入。

10月16日 商品の払出

150個払い出すので、残りは30個

10月18日 商品の仕入

仕入前残高(30個×@¥200)とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{仕入前残高} \quad 30 \text{ 個} \times @ \text{¥}200 = \text{¥}6,000 \\ \text{仕 入 分} \quad 200 \text{ 個} \times @ \text{¥}210 = \text{¥}42,000 \end{array} \right.$$

として併記する。

10月22日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す180個中、先に仕入れた30個(@¥200)を全て払い出す。

残りの150個分を、後からの仕入分(@¥210)で払い出す。

第4問

まず各伝票の取引の仕訳をする。

9月9日 入金伝票

(借) 現	金	3,000,000	(貸) 借	入	金	3,000,000
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

9月17日 出金伝票

(借) 前	払	金	100,000	(貸) 現	金	100,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

9月20日 振替伝票

(借) 仕	入	800,000	(貸) 前	払	金	100,000
				買	掛	金
						700,000

以上の仕訳を転記する

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より ¥150,000

(借) 仕 入	150,000	(貸) 繰越商品	150,000
繰越商品	210,000	仕 入	210,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は ¥500,000

$$¥500,000 \times 1.2\% = ¥6,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は ¥6,000 - ¥3,000 = ¥3,000

(借) 貸倒引当金繰入	3,000	(貸) 貸倒引当金	3,000
-------------	-------	-----------	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は ¥3,000,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥3,000,000 / 5 \text{年} = ¥600,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	600,000	(貸) 備 品	600,000
-----------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

¥1,000 を雑損（費用）として処理する。

(借) 雑 損	1,000	(貸) 現金過不足	1,000
---------	-------	-----------	-------

5. 引出金の処理

引出金の金額 ¥80,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	80,000	(貸) 引 出 金	80,000
-----------	--------	-----------	--------